

第 1 回 世田谷区令和元年台風第 19 号に伴う浸水被害検証委員会 議事要旨

日時：令和元年 12 月 26 日（木曜日） 9 時 30 分から 12 時

場所：世田谷区役所 二子玉川庁舎 2 階 1 会議室

議事要旨：

（委員）

- ・【スライド 49】にある世田谷区雨量・水位観測システムの玉川樋管水位局の 13 日（日曜日）の午前 8 時のデータについて、この時間まで谷沢川が越水していた事実はないため、異常値と考えられるので修正すること。
- ・また、ピーク水位について、欠測しているのであれば、ピークと断定できないため、表現を再検討すること。

（事務局）

- ・玉川樋管水位局の護岸天端にあるネットフェンスの浸水痕跡から判断すると、計測水位より高い値が最高水位になる可能性があるため、表現を修正する。
- ・玉川排水樋管付近の護岸天端の高さとしては、谷沢川左岸の水位局地点よりも上流側が低くなっており、そこから越水が始まった可能性がある。

（委員）

- ・【スライド 56】にある各水門の操作状況について、閉鎖による内水滞留を避けるため、現場作業が可能な限りは職員が開閉作業を繰り返しており、今後、浸水シミュレーションを行う上でも、全閉だけでなく、開閉の状況を詳細に取りまとめるべきである。
- ・台風による風が強く、水門操作に影響を及ぼしたと考えられるため、風速データも取りまとめた方がよい。

（事務局）

- ・水門操作における暴風対策を考慮した上で、施設のあり方を検討する必要があると認識している。風速データについても取りまとめて報告する。

（委員）

- ・玉川排水樋管の水門操作において、逆流の目視による観測は難しいのではないかと。堤防内外の水位差を計測してコントロールするのが合理的である。

（事務局）

- ・現場での逆流の確認については、玉川排水樋管は水門上部に部屋があり、上流と下流の水位の差を目視で確認しているが、夜間の場合は視界が悪く、逆流の判断が難しい状況にある。

（委員）

- ・玉堤地区の浸水被害発生メカニズムを把握するためには、丸子川と多摩川の合流部にある調布排水樋管の水門操作についても記載した方がよい。
- ・調布排水樋管については、現在、国土交通省で工事をしており、当日の水

門操作は国土交通省が管理していたが、開閉操作はしておらず（全開の状態）、逆流現象はなかったようである。

（委員）

- ・等々力排水樋門は、操作要領に定められた水位によると、12日（土曜日）午後3時頃には全閉する必要があるが、全閉により内水が滞留することになり、操作は非常に難しいと考えられる。

（事務局）

- ・等々力排水樋門は、水門下に下水道雨水管があり、内部の流下状況は確認できないため、川裏の住宅地の道路にある人孔からの噴き出しで逆流の判断をしており、逆流の判断が難しい状況にある。当日の現場状況としては、午後3時頃には逆流は起こっていなかった。

（委員）

- ・等々力樋門、下野毛樋門の操作に関するオペレーションについて、逆流の判断方法や水門操作の水位根拠、操作人員の配置などを検証する必要がある。

（委員）

- ・各水門の排水ポンプ施設について、多摩川の河川管理者との調整や施設用地の確保、整備水準などの課題もあるが、制度的に不可能でないのであれば検討すべきである。
- ・多摩川へのポンプによる排水については、下流での流量の増加や計画高水位を超えた場合の破堤の可能性があるため、調整が必要である。

（事務局）

- ・排水ポンプ施設を整備することで、滞留した内水をすべて排水できなくても、要支援者が安全に避難できる時間を確保することが可能になることも考えられる。
- ・排水ポンプ施設については、課題があるものの、各管理者に要望していきたいと考えている。

（委員）

- ・玉堤地区にある等々力雨水幹線については、丸子川と接続しており、多摩川の逆流により丸子川に流入したと思われる痕跡を現地で確認している。
- ・丸子川への流入については、丸子川と多摩川の高さ情報があれば、当時の状況を把握できる可能性がある。
- ・浸水被害発生メカニズムの解明には、河川の水位だけでなく、流量の情報も必要となる。

（事務局）

- ・玉堤地区の浸水については、等々力排水樋門の全開に伴う水量もあるが、玉川排水樋管を12日（土曜日）の午後7時半に全閉しており、谷沢川からの越水で相当な水量が流入していると考えられる。

(委員)

- ・上野毛・野毛地区については、浸水要因として何が考えられるのか。

(事務局)

- ・下野毛排水樋門を閉めたことによる内水滞留のほか、二子玉川駅付近の堤防未整備区間からの溢水が下野毛雨水幹線に接続する雨水管を通じて流下した可能性がある。また、明神池余水吐を全閉するまでの間、丸子川から流入していた可能性がある。

(委員)

- ・【スライド56】の新玉川排水樋管について、平常時は全閉とあるが、非常時は全開と誤解される可能性があり、今回の台風は非常時で全開と捉えられるため、当日の開閉状況が分かるような表現に変更すべきである。

(委員)

- ・水門の操作要領等については理解したが、下野毛排水樋管では、洪水時に現場でどのように操作しているのか具体的に教えて欲しい。

(事務局)

- ・下野毛排水樋管には、川裏に水門操作場があり、そのたもとの集水柵の水位で逆流の判断をしている。

(委員)

- ・浸水範囲について、資料4の図面で示されたおおまかな範囲だけでなく、より詳細なものを策定する必要がある。浸水被害発生メカニズムの解明には、時系列の浸水範囲の情報があるとさらによい。

(事務局)

- ・職員が現場で確認した浸水の痕跡や災証明、国土地理院が撮影した台風翌日の航空写真による道路上の泥の堆積などの情報を取りまとめて、浸水範囲の精度を上げていきたいと考えている。

(委員)

- ・防犯カメラ等の映像情報があり、個人所有のデータは承諾の必要性もあるが、情報収集することで時系列の解明には役に立つと考えられる。

(委員)

- ・浸水被害発生メカニズムの取りまとめとしては、上野毛・野毛地区、玉堤地区ともに複合的な要因により浸水被害が発生しているが、各要因でどの程度の影響だったかを把握した方がよい。
- ・各委員が把握している浸水状況の情報を集めて、浸水発生状況をアニメーションにするなど、時系列で視覚的に把握できるものを作成する必要がある。

以 上